

年カリの見直し・人材の活用による働き方改革の推進

大野町立大野小学校

大野小学校には、様々な形で人材を配置していただいている。この人材を効果的に活用して教職員の負担を軽減し、子供たちに接する時間を確保していくのが学校に課せられた使命である。今回は、年カリの改定と人材の活用による働き方改革について報告する。

1 取組の内容

(1) 年間授業数や行事の見直しによる時間の確保

ア) 年間時数の見直し

年間授業数の見直しを実施した。規準時間数近くまで時間数を減らすことで、6時間目の授業を可能な範囲内（保護者の理解が得られる範囲内）でカットした。

イ) 行事の見直しによる負担軽減

行事の内容を厳選し、「1から作り上げる」内容を極力減らすことで労力軽減を図った。

- ・運動会では、応援合戦の時間や演目数を減らすことで、演目指導の労力軽減を行った。
- ・人権集会では、移動方法の変更や発表時間減を実施した。

(2) 加配人材、外部人材の効果的な活用

ア) 児童生徒支援加配（児童生徒支援拠点校指導員）の効果的な活用

校長OBを加配教員として活用することで、不登校対応のみでなく不登校になりそうな児童や教室から飛び出す児童などにも柔軟に対応することができた。また、学級担任との連絡調整の時間を確保することにも努めた。

イ) 外部人材の活用

町より、昨年度よりSSSを1名追加していただき、事務補佐・学級事務サポートをお願いした。教科指導員、特別支援アシスタントの方々は、指導場所を固定せず柔軟配置とし、「今必要な支援が欲しい」と要望する学級担任のサポートに入ってもらったようにした。

(3) 水曜・8の日早帰りの実施

ア) 教頭を主に、水曜18時早帰りを完全実施した。8の日は努力目標として位置付けた。

2 取組の結果

(1) 年間授業数や行事の見直しによる時間の確保

ア) 6時間目授業を減らした数 → 昨年度比マイナス8時間

イ) 運動会に対する会議の数 → 前年度2回減

(2) 加配人材・外部人材の効果的な活用について、担任の時間外勤務時間の比較（4～11月）

ア) 児童Aの昨年度担任時間外勤務223時間 → 本年度担任時間外勤務213時間

児童Bの昨年度担任時間外勤務307時間 → 本年度担任時間外勤務203時間

見通しがもてたことで学級担任の負担が確実に減り、働き方改革に確実に繋がった。

イ) SSS → 学級の事務仕事の委託により、事務仕事軽減

教科指導員・特支アシスタント → 特別支援学級担任の空き時間確保

(3) 水曜早帰りの完全実施

ア) 退校時間に区切りがあることで、教職員は「隙間時間」を有効に活用するようになり、仕事の向き合い方に対する変化を見出すことができた。

3 成果

細かな改革ではあったが、これにより教職員にゆとりが生まれたのは事実である。とりわけ本校にとっては、役職定年や退職された校長が、「児童生徒支援加配（児童生徒支援拠点校指導員）」として学校で活躍されることが、現場の教員の負担軽減につながった。

これらの改革により、教職員の意識は、改革が単に「時間を生み出す」という目的ではなく、「生み出された時間を子供たちと向き合う時間に費やすことで、子供たちの心が豊かになり、問題行動が減り、その結果教職員の働き方が改善される」と変化していった。この意識を次年度につなげ、なお一層の働き方改革につなげていきたい。